

成果指標設定調書

【成果指標の設定】

成果指標設定年度 29 年度

市町村名	朝霞市			
提案事業名	市制施行50周年及びオリンピック・パラリンピックを契機としたまちの賑わい創出事業			
事業期間	29 年度	～	年度	
事業の必要性、目的	<p>朝霞市人口ビジョン（平成28年2月）において、朝霞市は都心への交通利便性の良さから人口が増加を続けている一方で、年齢階級別の純移動数では、「0～9歳」の年齢階級及びその親世代である30代・40代の年齢層で転出超過となっていることから、人口構成を将来に渡ってバランスよく保ち続けるために、現在転出傾向にある就学前の子育て世帯やこれから結婚・出産を迎える若い世代の定住を促進することが重要な課題として整理している。このため、朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、基本目標2「地域の特色を生かした選ばれるまちづくり」として、市民の地域に対する誇りや愛着心の醸成を図ることを掲げている。</p> <p>また、RESAS情報で流動人口の月別推移（2014年）を見ると、基地跡地エリア（東武東上線及び国道254号線は除いている）について、朝霞市民まつり彩夏祭（3日間で60万人を超える来場者がある。）が開催される8月の休日は約24.5万人もの流動人口があるが、その他の月では平日、休日ともに、ほぼ17万人から22万人で推移している。8月の休日の数字がこの基地跡地エリアの潜在的に有する土地資源としての可能性（キャパシティ）を示していると言える。</p> <p>こうした中、朝霞市は、平成29年3月15日に市制施行50周年を迎えること、また、2020年東京オリンピック・パラリンピックの射撃競技が陸上自衛隊朝霞訓練場で行われることから、朝霞市を市内外にPRする機会であり、シティ・プロモーションに取り組み、朝霞市の認知度の向上及び朝霞市を訪れる方の増加を図ることが課題となっている。</p>			
成果指標	（成果を検証する指標） 年齢別人口「0～9歳」			
	（成果検証の具体的な方法） 統計情報			
	（上記の指標を設定した理由） 朝霞市人口ビジョン（平成28年2月）において、年齢階級別の純移動数を分析すると、「0～9歳」の年齢階級で転出が多くなっていることから、人口構成を将来に渡ってバランスよく保ち続けるために、現在転出傾向にある就学前の子育て世帯やこれから結婚・出産を迎える若い世代の定住を促進することが課題とした。今回の交付対象事業を通じて、課題である市民の定住化に関する効果の測定ができるものとする。			
	（成果の目標値）			
	現状値 （29年1月現在）	13,061人	目標値 （30年4月時点）	14,000人
	（施設建設等の場合）			
	年間利用者数（目標）（人）		稼働率（目標）（%）	
住民への公表方法及び特記事項				

【成果指標と構成事業の関連性】

平成29年度 構成事業

構成事業名	概要・成果指標との関連性	事業費（千円）
① 市制施行50周年記念事業	ソフト 市の魅力を市内外へ積極的に情報発信し、対外的には朝霞市の認知度の向上を図り、市民に対しては朝霞市に住んでいることへの誇りや愛着心の醸成を促す。	12,976
② オリンピック・パラリンピック事業	ソフト 2020年東京オリンピック・パラリンピックの射撃競技が陸上自衛隊朝霞訓練場で行われることから、競技大会の機運を高める。	1,393
合計		14,369

【成果指標の達成見込み】

目標達成のための具体的な方策	一連の取組を通して、市の魅力を市内外へ積極的に情報発信し、対外的には朝霞市の認知度の向上を図り、市民に対しては朝霞市に住んでいることへの誇りや愛着心の醸成を図る。
成果指標の達成見込み	一連の取組を通して、成果指標を達成したい。

(記入上の注意)

【成果指標の設定】

・住民への公表方法は具体的に記述すること

【成果指標と構成事業の関連性】

・提案事業を構成する各事業(構成事業)について次のとおり分類すること

「ハード」 施設建設等が中心の事業(ハード事業)。

「ソフト」 主に人的要素を活用した活動でハード事業以外の事業(ソフト事業)。

「間接補」 青年会議所、商工会議所・商工会、自治会、NPO等の公共的団体が実施する事業
に対して市町村が補助金を交付するもの(間接補助事業)。

・事業費は補助金を要望する単年度の事業費のみ記入すること。また、間接補助事業の場合には、
事業費の下に()書きで、市町村の負担額又は補助額を記入すること。